

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 1階さくらユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170502462-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域交流の一環として、町内の保育園児を招いて行事を開催したり、町内会や地域包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座への参加や町内会主催のカフェ等に参加しています。又、年に1度のお祭りには町内ヘチラシを配布し参加していただいています。
- ②地域に貢献出来るようご家族様にご協力を依頼しホームと共同でリングプルやエコキャップを集めワクチンへ交換しています。
- ③外出の機会を多く設ける為、各ユニットごとに計画を立案し外出行事を実施しています。又、外出が難しい冬期間などは室内行事を月に1度以上実施しています。他にもお祭りや音楽鑑賞等、他事業所との交流行事なども実施しています。
- ④ご入居者様1人1人との関わりを大切に個別に行事を立案し、買い物や野球観戦などスタッフとご入居者様が密に関われる時間を確保しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の家グループホーム札幌福住」は、バス停から徒歩数分の静かな住宅地に立地している。建物内は明るく開放感のある造りで、利用者の普段の様子を窺うことができる写真や季節感のある装飾を綺麗に施してあり家庭的な温もりが感じられる。近隣の保育園児が事業所の夏祭りやクリスマス会、ハロウィンに来訪したり、お祭りで子供神輿やよさこいを披露している。利用者と一緒に芋掘りなども楽しみながら長年保育園との交流を継続している。また、近隣の方に散歩の機会にお花を戴いたり、トラクターで畑を耕して戴くなどの交流もある。今年度は、管理者が地域包括支援センターの依頼を受けて、地域の認知症サポーター養成講座の講師をしたり利用者と一緒に認知症カフェに出かけている。管理者は、町内会関係者に運営推進会議や避難訓練に参加してもらえるように更につながりを深めていきたいと考えて地域交流に積極的に取り組んでいる。野球観戦やコンサート鑑賞に個別支援で出かけたり、ユニット毎に工夫しながら毎月行事を計画して、円山動物園や羊ヶ丘展望台などに外出したり外食を一緒に楽しんでいる。調理担当職員が利用者の好みに配慮しながら献立を工夫し、おやつバイキングやパフェを一緒に作るなど楽しい催しも多く取り入れている。職員は一人ひとりの思いに寄り添いながら細やかなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝全体での朝礼の際に唱和している。	法人共通の運営理念を基に、年間のホーム目標とユニット目標を毎月掲げている。毎月目標達成度を振り返る時に理念を再確認している。玄関やユニット内にも運営理念を掲示し、全職員で共有しながら実践につなげていきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内の方との交流行事(お祭り等)行っている。	ハロウィンで来訪した園児におやつを渡したり、畑の作物と一緒に収穫している。今年度は、地域の認知症カフェに利用者と一緒に参加している。散歩の時に挨拶を交わしたり、お花を戴くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施し日頃のケア等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のホームの状況等を伝え、話し合い、サービス向上に努めている。	事業所報告を中心に、看取りや認知症の症状などについて説明している。会議案内と議事録、資料も送付している。家族は数名参加しているが、町内会役員の参加は得られていない。地域包括支援センターと共に参加を依頼する予定である。	町内会に参加を依頼し、役員などの出席を継続して得られるよう期待したい。テーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見や質問なども会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	祭り等ホームでの行事にお誘いし又、町内の行事へも参加するように努めている。	地域包括支援センター主催による、地域の認知症サポーター養成講座に管理者が講師として参加している。管理者会議に参加して情報を交換したり、書類の提出などで役所を訪問して連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修等で身体拘束に関する知識を学んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備し、身体拘束に関するホーム内研修を実施している。職員は、2か月毎に拘束に関するチェックシートで日々の対応を振り返っている。車椅子からずり落ちないように座布団などを使い、拘束につながらないように工夫した事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修等で知識を深め虐待の無いケアを徹底している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修、会議等で学び必要に応じて制度が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様にしっかりとホームでの生活について説明し改定などがあった際にもしっかりと時間確保し納得していただけるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、要望、改善策えお真摯に受け止め問題の改善に努めている。	来訪時にゆっくり話をしながら意見や要望を聞き取ったり、管理者や事務所の担当者なども職員に話せないことなどを聞き取るようにしている。意見や要望は主に管理者とリーダーが把握し、検討が必要なことは職員の連絡ノートに記入している。	家族の些細な言葉や職員の気付きを個別に記録に残し、継続的に職員間で情報を共有するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などで意見や提案を聞く機会を設けている。	会議に参加できない職員の意見はリーダーが事前に聞き取り会議に反映させている。利用者の状態変化や職員の入れ替わりがあった時は、職員間で業務の流れなどを検討している。管理者は、普段から職員と話しをして意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケート、個人面談、会議等による聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の実施、外部での勉強会への参加機会を積極的に設ける事によって一人一人のスキルアップの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や祭りなどを行い、参加する機会があり意見交換の場がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様はもちろんのご家族様の声もお聞きしながらその時々に向き合い対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や月のお便り、カンファレンス等職員一人一人が必ず会話する機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを実施し話した中でご家族様の思いと現状を話し合い「今」に合ったサービスを提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意を持ち、馴れ合いが強くなり過ぎないように一線をひきながら共に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に過ごしていただける時間を大切にさせていただけるよう状況報告し都度ご協力を依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力の元外出していただく事もある。又、ホームでも個々に支援出来ている。	仕事関係の知人や習い事などの友人が訪ねて来ることもある。手紙が届いた時に電話をしたり、職員と一緒に返事を書くこともある。外出時に以前住んでいた家を見て来たこともある。職員とコーヒーを飲みに行ったり、野球観戦に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながらコミュニケーションを取れるように支援している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームに来訪して下さる事があったり、電話連絡等行える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを考えながら毎日ケアに努めている。意志を伝えるのが難しい場合においてもこちらから積極的に関わりを持つ。	会話から把握するのが難しくなった時は、生活歴や入居後の生活、表情や仕草などから把握している。センター方式(C・D・E)シートを活用して追記し、3か月毎に書類を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、センター方式を活用しながら又、ご本人、ご家族様との会話の中から情報収集し把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りをしながら現状を把握する。又、月の会議で一人一人の事について話し合う時間を設けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一人一人に対しての話し合いをする事で今必要とされている事は何かを考え、又、日々の会話の中からのヒントを活かしながら作成している。	カンファレンスや来訪時に家族の意向を聞き取り、3か月毎に介護計画の見直しを行っている。週ベースの評価や各職員の評価結果を見直しに活かしている。家族の具体的な希望も1表に記入して介護計画に反映させていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアプランが反映されているか記録をチェックしている。記録のほかに、小さな事でも共有できるノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化の気づきを大切に都度話し合いサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームや町内の祭りへ参加や保育園との交流から関わりが増えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と24時間の連携体制がある。又、馴染みの病院へ受診している方も居る。	家族と一緒に専門医やかかりつけ医を受診する時は、書面や口頭で健康状態を伝えている。協力医療機関を受診する時は職員が同行して医師と情報交換している。往診・受診は「看護経過記録」に個別に記入して情報を共有している。	

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪、ご入居者様の様子、特変を申し送り、指示をいただき記録に残しスタッフ間での情報共有をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と連携を取り、急変の際には指示をいただき受診が必要な場合には協力医療機関を紹介して下さり、入院時も情報をいただき早期の退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でターミナルケアに対する研修を行い他事業所での事例を用いながらチームケア、アプローチについて学んでいる。	利用開始時に重度化と看取りの指針に沿って説明し、医療行為が必要になった時や家族の協力が得られない時は事業所での看取り対応は難しい旨を伝えている。看取りの研修を実施し、昨年の看取り後には職員間で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて急変、事故発生時の対応について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。また、災害に備え保存水、非常食を備蓄している。	年2回、消防署の協力の下に昼夜の火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。室内の危険箇所を確認して安全対策をしている。地震時のケア別の対応について、職員間で今後確認したいと考えている。	地域役員などに避難訓練への参加を依頼し、災害時における地域との協力体制を築くよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人一人の人格を尊重しその人に合った言葉掛けを行っている。	職員は、研修でプライバシー保護やコミュニケーション技術を学んで利用者に接している。ファイルも個人が特定されないようイニシャルにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が自己決定出来る場面を提供、ご本人の好みに合わせた飲み物の提供や洋服選びを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のペースに合わせた生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのご入居者様に合った服装、季節、気温に合った服装の提供、提案を行っている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様に合った食事の提供を行い食事の盛り付け、配膳、下膳を出来る限り一緒に行っている。	調理担当者が3ユニットのおかずを作り、各ユニットで主食と汁物を作っている。外食で和食レストランやカフェレストランに出かけている。誕生日や行事でも献立を変更して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、記録を元に提供を行いご本人に合った形態で提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、食事前に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導を行いながらご本人の意志、様子で誘導を行っている。	利用者毎に24時間の水分・排泄表に記録している。自立している利用者は夜間のみ記録している。職員の適切なトイレ誘導で自信が付き、布パンツにパッドだけになった利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量に気を付けながら体操等の体を動かす機会を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様一人一人の習慣、体調にも気を配りながら必要時にはスタッフ二人で介助している。	毎回湯を張り替えて、午前中に3名程が好みの入浴剤を使い気持ちよく入浴している。座位が保てる限り湯船に浸かってもらい、入浴が難しくなってもシャワー浴に切り替えて清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方には居室にて休んでいただいている。ウトウトされている方には声を掛け休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服しやすいよう錠剤を数回に分けて内服したり、水にトロミを付けて提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の負担にならない範囲でのお手伝いの依頼を行っている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階さくらユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等可能な限り外出している。色々な所へ行けるように計画もしている。	日々近隣を散歩したり、事業所の菜園や花畑で収穫や花を摘んで外気に触れている。外出行事では円山動物園、羊ヶ丘展望台、駒岡保養センターなどに出かけている。個別での外出支援も行っている。冬季もサッポロファクトリーの巨大クリスマスツリーの見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り買い物へ同行していただき選んでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話の使用も常時可能。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期、その季節にあった掲示物を用いながらその時期、季節を感じていただけるようにしている。	3階建ての事業所で、敷地内には広い農園もある。裏庭にはベンチやパラソルも用意されている。屋内は明るく開放感があり、廊下の奥にも腰掛けて休めるスペースがある。利用者は、リビングのソファで好みの席に腰かけてゆったり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の座席の配置などに気を付け楽しく過ごして頂けるよう気を付けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が居心地良く過ごせるよう思い出の品、写真等置き対応している。	洗面化粧台が備えられてる。入居前から使っていた品物やテレビ、洋服掛けや加湿器を置いたり、家族の写真や野球選手のポスターなどを掲示して安心して暮らしている。居室の表札に、災害時に役立つように入居者毎に誘導方法を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし「出来る事はしていただく」に気をつけ取り組んでいます。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 2階ひまわりユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170502462-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域交流の一環として、町内の保育園児を招いて行事を開催したり、町内会や地域包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座への参加や町内会主催のカフェ等に参加しています。又、年に1度のお祭りには町内ヘチラスを配布し参加していただいています。
- ②地域に貢献出来るようご家族様にご協力を依頼しホームと共同でリングブルやエコキャップを集めワクチンへ交換しています。
- ③外出の機会を多く設ける為、各ユニットごとに計画を立案し外出行事を実施しています。又、外出が難しい冬期間などは室内行事を月に1度以上実施しています。他にもお祭りや音楽鑑賞等、他事業所との交流行事なども実施しています。
- ④ご入居者様1人1人との関わりを大切に個別に行事を立案し、買い物や野球観戦などスタッフとご入居者様が密に関われる時間を確保しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて運営理念を唱和し、理念を共有し実践に繋げている。 クレドを携帯し理念を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園を招待し、駐車場にてご入居者様とよさこいを見学したり、子ども神輿を見学したり、望洋会館へ行き夏祭りへ参加、ミッケルアートの発表等地域交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	望洋会館にてミッケルアートの発表を行い認知症の回想法等を説明しているが発表回数が少ない等の課題がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し行事等を報告しご家族様と意見交換をしサービスに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座にて講話をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修を行い身体拘束を行わないケアに取り組み、定期的に身体拘束に関する禁止事項を朝礼時に唱和しケアに活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて虐待防止に関する知識を深め会社内で虐待防止チェックシートを使用し虐待防止に努めている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて権利擁護に関する知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を使用し、十分な説明を行いご家族様の不安や疑問等は管理者、リーダー、ケアマネージャーと話し合いの場を持ち説明対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートの実施、アンケート結果を掲示している。面会時に都度意見、要望等を聞き運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフアンケートを実施し意見交換の場を作り運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを整備し意欲向上に向け職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にホーム内研修を実施し働きながらトレーニングをし人材育成をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム間の交流、大きな行事の時(夏祭り等)で行き来出来るような機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居様を放置することなく状況に応じて話を聞いたり傍に居ながら接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来訪された際は挨拶をしっかりとご入居様様の最近の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの様子を見ながらご入居様の状態に応じてサービス内容を変えながらご本人に合ったサービスを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居様の体調や希望に合わせてながら出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご入居様の様子を伝える他に月1回ホーム便りを配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間でご入居様を動かさず、ご入居様のその時その時の気分に合わせながら対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居様同士の関わりでは状況に応じてスタッフが間に入りながら穏やかな環境を心掛けている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は施設外でもご入居者様やご家族様を大切にしている。電話や手紙等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の体調や希望に合わせてながら出来る事を一緒に行っている。体調に配慮しながら希望や意向を把握し意向に合わせてるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様の話や行動、ご家族様からの情報を受けながら過去の暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を確認したり、スタッフ同士で意見を共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様やご家族様の意見を聞いたり、また、担当スタッフと話し合いながらご本人に合ったサービスを提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やスタッフ同士で情報を共有しながらご入居者様に合ったサービスを提供するように必要に応じて計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状態が悪くならないようにご本人に合ったサービスを提供するよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の子ども達との交流の機会を作り日々の暮らしの楽しさを感じられるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様やご家族様の希望に合わせて担当医師と連携しながら安心して生活出来るように努力している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	会話からご本人の訴えや変化を看護師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と病院関係者と日々の状況の情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度ご家族様と状況説明をする機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や整備されているマニュアルにて学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内研修にて学んだり、定期的に避難訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った声掛けを意識し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に尋ねる形をとり自己決定を出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のご希望に合わせてその方のペースに合わせた生活うい意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どのような服装が良いか尋ねる等その方の意志を尊重している。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは会話を交わしながら一緒に行っている。飲み込みが困難な方は刻んだり、トロミを付ける等の対応を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を使用しており1日の水分量が不足している方は声掛けにより対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、ご自身で出来る方は声掛けにて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用しており声掛けにてご本人の状態を確認している。2時間以上間隔が空いている方はトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の際は医師から指示された下剤を使用している。日中散歩をする等の運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の機会が空かないように対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後に休息の時間を設けている。眠気の強い方は居室に戻り休息を取る等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで情報を管理しスタッフ同士でも確認し合うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを行ったり、日々の会話からその方一人一人の趣味を把握し活躍出来る機会を作っている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひまわりユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な季節にはホーム周辺の散歩を実施。冬には転倒のリスクが少ないドライブ等の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にての保管。ご本人の希望に沿っていつでも使用出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿ってその都度時間を確保している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような物は置いていない。季節や行事によって装飾などを制作し取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるリビングと一人の空間である居室を自由に行き来出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただき居室に設置、使用していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等の区別がつくようにマーク等を掲示しておりリビングにも手作りのカレンダーを設置しいつでも日にちがわかるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカルケアサービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住 3階こすもすユニット		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170502462-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①地域交流の一環として、町内の保育園児を招いて行事を開催したり、町内会や地域包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座への参加や町内会主催のカフェ等に参加しています。又、年に1度のお祭りには町内ヘチラスを配布し参加していただいています。
- ②地域に貢献出来るようご家族様にご協力を依頼しホームと共同でリングブルやエコキャップを集めワクチンへ交換しています。
- ③外出の機会を多く設ける為、各ユニットごとに計画を立案し外出行事を実施しています。又、外出が難しい冬期間などは室内行事を月に1度以上実施しています。他にもお祭りや音楽鑑賞等、他事業所との交流行事なども実施しています。
- ④ご入居者様1人1人との関わりを大切に個別に行事を立案し、買い物や野球観戦などスタッフとご入居者様が密に関われる時間を確保しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の運営理念の唱和にて意識し実践出来るように		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等、地域の保育園との交流、月に一度の訪問美容もあり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームで行っているミッケルアートを町内会の集まりに参加し一緒に行っていただく事で交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の参加人数も増えて来ており現在の取り組み状況、改善点等を報告している。意見交換をさせていただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修会に参加しています。また、地域包括支援センターや町内会と協力し認知症サポーター養成講座に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットドアは常に開錠出来るよう心掛け身体拘束への理解を深めながらケアをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い、声掛けの仕方で気付いたら職員同士で注意出来るようにしている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を設けて成年後見制度を利用されている方も入居されていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設けて丁寧な説明を行っている。また、不安や疑問点は尋ねていただけるようお声掛けをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート箱を設置、また年に一度ご家族様アンケートを行いその都度改善策を話し合っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンス、ユニット会議のほか日頃のコミュニケーションやアンケートでの意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より意見や要望を聞き取り環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や会社全体での研修、また外部への研修参加の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの行事や合同研修等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家庭でのご本人の習慣、馴染みのある物の持ち込み、ご家族様から情報を教えていただきホームでの生活に活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安等をお聞きしホームでの生活へ活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅へお伺いしご本人と面談を実施ご家族様からも話をお聞きしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事を一緒に行い自立支援をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を月に1回のお便りでお知らせしご家族様来訪時にその都度説明しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人との手紙、電話のやり取りを行ったりご本人、ご家族様から要望があれば以前掛かっていた病院での受診を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常時、行事等でご入居者様同士が交流出来るように必要に応じて職員が会話の橋渡しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもご家族様から連絡をいただいたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の希望や意向を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報を大切にしています。また、ご本人の日々の言葉、行動から情報を得て共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残したり職員間での申し送りを行情報共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の気持ちご家族様の想いをお聞きしご本人の状況に応じたサービスを提供しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員個々の視点で思った事を伝えあいモニタリングを活用しながらケアプランに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに合ったサービスを提供出来るよう出来る限り努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の方々との交流場を設けたり楽しさを感じていただけるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向をお聞きし、かかりつけ医と連携しながら安心して生活できるよう努めています。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の個々の情報「を看護師の方と相談しご家族様にも情報を伝え、介護に役立てる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へご家族様と施設側から情報提供を行い、治療に役立て早期退院に向けdrを交えた今後の方針を話し合う場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは入居時に説明を行い重度化の可能性がある場合はご本人の今現在の状況説明を行い往診医を交え今後のケアについての話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修や外部研修にて学びユニット内でも定期的に各スタッフ同士で声掛けをして確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内研修で知識を身に付け設備の場所、使用方法の確認の訓練を実施、何か起きた時にすぐに動けるように日頃から気を使う。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方を工夫し利用者様個々に対してケアの方法のマンネリ化が無いよう意志やプライバシーに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の発言に何を訴えたいのかしっかりとみみを傾け今後のケアに反映出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて何かやりたい事は無いのか急がせる事が無いように声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の整容、個々に合った身だしなみにも気を付けている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けをして盛り付けや食器拭きをご入居者様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表に記録している。水分の足りない方には個別で提供している。食事の形状もその方に合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表、時間を見て声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中こまめに水分を提供し体操を行い腸の動きを活性化する為取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3~4名で入浴していただいている。拒否がある場合は無理強いせず時間を置いたり、次の日に声掛けをする。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察、ご本人に伺い休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服中、以前内服」されていた薬の情報はファイリングしておりすぐに確認出来る場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフ内でも情報共有し日中提供出来る事をして頂けている。		

愛の家グループホーム札幌福住

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階こすもすユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度は外出をする事を心掛けている。冬期間は外出が難しくなってしまいますがホーム周辺の散歩も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて金銭管理を行っているが、ご本人が希望された際、ご家族様へリスクなどの説明し承諾を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話をしたり手紙のやりとりが出来る環境を整備している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど張り紙や目印になる物を掲示しわかりやすいよう工夫している。壁の装飾も季節ごとに交換している。また装飾作りは出来る限りご入居者様と行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごされていたり共有空間であるリビングで過ごしたりと自由に行き来出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には馴染みのある物を持ち込んでいただいたりし安心出来る空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレートを配置したり、見やすい日めくりカレンダーを使用し日にちを認識していただけるに努めている。		

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム札幌福住

作成日：平成 30年 3月 5日

市町村受理日：平成 30年 3月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族様の意見や要望を反映出来ていない部分がある。	全スタッフがご家族様としっかりとコミュニケーションを取り意見や要望を話しやすい環境を作り運営に反映していく。	ご家族様との日常会話等からも気づきを記録し全スタッフで共有する。 意見や要望だけでは無く個々のご家族様が何を求めているのかにもしっかりと目を向けて対応していく。	1年間
2	4	運営推進会議への地域住民の参加が少ない。	気軽に参加していただけるように日頃から関わりを増やしていく。	現在、地域の方との交流も増えて来ている為、今後も継続し関係を深めていく。 運営推進会議でどのような事を行っているのかを知っていただけるように交流の際に説明しお誘いしていく。	1年間
3	35	避難訓練への地域の方の参加が無い。	地域の方に参加していただき災害時には協力していただけるような関係を構築していく。	避難訓練時の案内の配布。 上記同様地域の方との交流が増えて来ている為、避難訓練への参加を依頼していく。 事業所内でも災害時に外部の方に手伝っていただく部分を話し合い決定する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。